

ジェンダーギャップ指数は121位の日本

世界経済フォーラムが毎年発表するジェンダーギャップ指数で日本は121位（153カ国中）。前年の110位から更に後退しています。主に男女差が大きい項目は「経済」「意思決定」の分野です。G7加盟国、OECD加盟国でも最下位となりました。上位を占めるのは北欧諸国（アイスランド、ノルウェー、フィンランド等）でした。

※人口や経済規模が異なるので本記事ではG7で比較しています。

G7加盟国で比較（順位）

ドイツ	10位	アメリカ	53位
フランス	15位	イタリア	76位
カナダ	19位	日本	121位
イギリス	21位		

（世界経済フォーラム 2020 レポートより）

分野別

115位

経済分野

22万円

16万円

資金の格差

男性 100 とすると、
女性は 73.3%

（厚生労働省：賃金構造
基本統計調査より）



分野別

144位

意思決定の分野

10.2%

女性

男性

国会議員の数（衆院）

（列国議会同盟 2019年2月）

193カ国中 164位
G7、G20で最下位

20.5%

女性

男性

豊中市議会議員の数

（豊中市ホームページより
2019年5月1日）

▶女性の声が拡がり始めた 2019年

性暴力に対して No という#MeToo、性暴力の被害者に寄り添う#WithYou、パンプスやヒール強制に No という#Kutooなど、女性、特に若い世代が声を上げはじめています。毎月11日には、性暴力を許さないという意志のもと、花を持って集まる「フラワーデモ」が日本各地で行われています。

痴漢に No!! #WithYellow

センター試験当日は痴漢の被害にあっても時間を気にして訴えにくい。痴漢の被害が増えることがあります。痴漢抑止のため「黄色いものを身に付けて電車に乗ろう」という運動が起こりました。女性だけではなく、男性も参加しています。

男性も暴力に No!! ホワイトリボンキャンペーン

男性が「女性への暴力を許さない」意志を示すのが「ホワイトリボンキャンペーン」です。

<https://wrcj.jp>



▶持続可能な地域のために「ジェンダー平等」を

女性も男性も、地域の人、地域の施設や市民団体とつながって、誰もが暮らしやすい社会に変えていくのがすてっぶの役割。これはすてっぶ開館 20年を迎える 2020年でも変わりません。性別にかかわらず「誰もが社会の一員」として、「自分らしく」いられること。「5番目のジェンダー平等」と同じことが男女共同参画社会であり、すてっぶの目標です。

5 ジェンダー平等を
実現しよう



17 パートナースhipで
目標を達成しよう

